

令和7年度 中川久定記念基金 由学館賞

一般財団法人 中川久定記念基金
令和8年1月21日（水）

お知らせ

2025年度 中川久定記念由学館賞が決定しました。

受賞者 海原 亮 住友史料館副館長
書 籍 『近世藩医の学問と医療環境』
出版社 思文閣出版

選 評

本書は、近世医学の発展において主導的な役割を果たした「藩医」層に焦点を当て、その身分構造、知識の伝達、そして近代医療への移行過程を一次史料に基づき実証的に解明した研究書である。

従来の医学史研究が学説や事績の発掘を中心としていたのに対し、著者は「医療環境（医師と患者の関係、およびそれらを規定する社会構造）」という社会史的観点から多角的な分析を試みている。主な論点は以下の3点に集約される。

第一に、藩医の身分と職分の実態解明である。彦根藩や福岡藩などの具体的な史料を分析し、藩医が武士としての「身分」と医師としての「生業」をいかに両立させ、社会構造の中に自らを位置づけていたかを明らかにした。

第二に、医学知識と技術の伝達構造である。米沢藩や鳥取藩などの事例を通じ、近世における医学の普及は、公儀（幕府・藩）の教育機関によるものよりも、秘伝を内包する師弟関係や、中央・先進地との文化的なネットワーク、さらに藩医集団の自律性に依拠していたことを指摘した。また、その過程で漢蘭折衷が主流となっていた近世的医療環境の特質を浮き彫りにした。

第三に、近世から近代医療体制への移行と継承である。明治初期の医務取締の分析を通じ、近代医制の導入後も、近世以来の師弟関係や漢蘭折衷の枠組みが一定程度維持され、近代化を規定していたことを突き止めた。同時に、医術開業試験規則によって排除された漢方医たちが、学統を重視し理論化を図ることで存続を試みた動向にも着目している。

以上の研究は、医学史を近世社会史のフィールドへと引き出し、地域史の観点から精緻に論じた点において独創性が高い。また、近世的医療環境の根幹をなした師弟関係のあり方の現代的な意義も示唆している。緻密な実証研究によって近世日本の地域文化研究に大きく貢献した成果は、中川久定記念基金由学館賞に相応しいものと高く評価される。